

平成26年度
ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI
(研究成果の社会還元・普及事業)
実施報告書

HT26168

【プログラム名】貿易ゲームで世界の国ぐにを理解しよう！ー持続可能な発展を目指してー



開催日：平成26年8月2日(土)

実施機関：相山女学園大学(現代マネジメント学部棟 308講義室)

実施代表者：水野英雄
(所属・職名) (現代マネジメント学部・准教授)

受講生：小学生 2名
中学生 15名

関連 URL：

【実施内容】

- 12:30-13:00 受付(相山女学園大学 現代マネジメント学部棟 308講義室)
- 13:00-13:10 開講式(挨拶、オリエンテーション(スタッフの紹介、スケジュール等の説明)
大学における科学研究の説明、科研費と本事業の説明)
- 13:10-13:40 講義①「なぜ貿易をするの？」(講師:水野英雄)、質疑応答
- 13:40-14:10 講義②「世界が豊かで平和になるために」(講師:水野英雄)、質疑応答
- 14:10-14:20 休憩
- 14:20-14:40 クッキータイム(研究者及び学部学生・大学院生との交流会)
- 14:40-16:00 実習①貿易ゲーム「みんなが幸せになるための世界の貿易」
- 16:00-16:10 休憩
- 16:10-16:40 実習②グループディスカッション「持続可能な世界のための貿易を考えよう」
- 16:40-16:50 アンケート記入
- 16:50-17:00 修了式(研究者によるまとめと挨拶、「未来博士号」授与式)
- 17:00 終了

最初に開講式で実施代表者である水野英雄准教授(現代マネジメント学部)からの挨拶と「ひらめき☆ときめきサイエンス」の趣旨、スタッフの紹介、スケジュール等についての説明を行った。その後、講義「なぜ貿易をするの?」「世界が豊かで平和になるために」を行い、図表やイラストを用いたわかりやすい資料とパワーポイントを用いて、貿易の仕組みやそれによって日本や世界に利益があること、消費者には多様なニーズが存在しそれに合わせた生産を行うためには外国における生産も必要であることなど、世界の平和と貿易との関係について解説し理解を深めた。



【講義の様子】



【クッキータイムの様子】

その後クッキータイムを実施し、生徒と研究者・大学生との交流を図り、研究内容だけでなく大学生活全般について伝えることが出来た。

クッキータイム後に講義で学んだことを踏まえて貿易ゲーム「みんなが幸せになるための世界の貿易」を行った。

貿易ゲーム(Trading Game)は1982年にイギリスのNGO「クリスチャン・エイド(Christian Aid)」によって作られた開発教育の代表的な教材であり、世界中で使用されている。具体的な方法は参加者をいくつかのグループに分け、参加者はグループごとに、はさみと定規・コンパス、筆記具等の道具と紙を使って製品を作る。そして「マーケット」で製品を販売して収入を得て、その金額を競う。最初に渡す道具と紙はグループ毎に異なり、その量を変えることで「資本(生産手段:はさみ、定規・コンパス、筆記具等)の多い国」や「資源(原材料:紙)の多い国」、「資本も資源も乏しい国」といったように現実の世界の状況を反映した設定を作り出すことが可能である。そのため参加者は様々な条件が異なる状況下で、生産のために必要な自分達のグループにないもの入手のために、必然的に「貿易」が発生する。「貿易」を通じて、交換のための交渉過程で発生する価格設定等の様々な問題や分業等の生産方法についての工夫を自発的に行うことで、経済活動を体験的に学習することができる。



【製品の作成】

【マーケットへの販売】

貿易ゲームの面白さは「答えがない」ことにあり、受講する生徒・グループにより様々な展開が行われることである。その中には授業の実施者の想定外のことも多く発生する。それはまさに現実の経済や貿易と同じである。今回の授業では、途中で製品に「四角形の角を削る」「円形の中心に穴を開ける」等の条件を設けることで、様々な規制が貿易を阻害することを体験的に学習することが出来た。また、貿易ゲームでは様々な予想外のことが起こることから、経済活動における不確実性とそれに対応する方法について学ぶことが出来た。特に、東日本大震災の影響による部品の供給不足から製品が作れなくなったことを再現し、高度に発展し複雑化した経済の仕組みについての理解を深めた。震災の発生による部品供給のストップや様々な貿易規制による影響を再現するような条件の設定によって、生徒は社会や経済の変化に柔軟に対応することの必要性を痛感していた。

今回の取組では「経済」という小学生・中学生に身近ではない分野について、「貿易ゲーム」を通じて身近な問題として関心をもってもらい、それによって大学での研究の成果との関係をわかりやすく伝えることに留意した。



【グループ間での交渉 ①】

【グループ間での交渉 ②】

具体的には、様々な経済データを図表やイラストを用いてわかりやすく説明した。また、講義だけでなく「貿易ゲーム」による実習にウェイトを置いて、楽しくかつ自らの問題として体験的に学習することが出来るようにした。大学での勉強は「自分で調べて考えること。」「他人の意見を聞き議論すること。」であることを伝え、振り返りとしてディスカッションも行った。これらを通じて生徒が自ら取り組むことが出来る活発な活動となった。実施後の生徒のアンケートでは肯定的な意見が多く、今後もさらに工夫して取り組むことが望まれる。



【振り返り、グループ発表の様子】

【未来博士号の授与】

今回の実施に当たっては、事務局との協力体制のもとで円滑に進められ、広報活動に関しても事務局と協力して下記のことを行った。

- ・ 本学ホームページへ掲載。
- ・ 新聞各紙に情報掲載の依頼。
- ・ 大学近辺の中学校・高校・図書館等へ案内状の送付。近隣の中学校へは直接訪問して依頼。
- ・ 併設学校へ案内状の送付。
- ・ 「持続可能な開発のための教育(ESD)に関するユネスコ世界会議」の「ESDあいち・なごやパートナーシップ事業」に応募し選定され、広報活動に活用。

但し、本学での開催は初めてであったために参加者が17名と少なく、次年度に開催する際には参加者募集の方法を再考する必要がある。

実施日の安全対策としては、教室内での講義と実習のために特に危険はないと考えたが、生徒には注意事項を十分に説明した上で実施するとともに、協力者である大学生・大学院生に対しては安全性確保のために突発事項が生じた場合には速やかに連絡し指示を仰ぐように徹底した。また参加者及び実施者全員に傷害保険の加入をした。

今後の発展性としては、身近に輸入されたものが多いことやそれらによって我々の日常生活が成り立っていることを理解した上で、地産地消、フェアトレード、TPP等の地域経済統合などについて経済学的な見方を教えることや、貿易だけでなく経済全般について関心を持つ機会を設けることが挙げられる。課題としては参加者が継続的な学習が可能なような展開を行うための工夫が必要である。

【実施分担者】

なし

【実施協力者】

3 名

【事務担当者】

飯田 篤 企画広報部企画課・主任